



Die Waffen nieder!

Beatrix v. Suttner

Whoever doesn't believe in dreams is not a realist



任何不相信梦想的人都不是现实主义者

꿈을 믿지 않는 사람은 참된 현실주의자도 아니다

夢を信じていない人は、現実主義者ではない

Whoever doesn't believe in dreams is not a realist



Chinese:



Korean:



Japanese:



English:

De Bovenkamer

With special thanks to: Yi Jun Peace Museum The Hague, Mary Siegel, Peter van den Dungen & Carnegie Foundation The Hague

De Bovenkamer 2014

夢を信じていない人は、現実主義者ではない、が国際平和のために貢献している人間自然科学研究所に勤務する小松昭夫氏と彼のチームの作業への感謝の印としてオランダの出版社 De Bovenkamer から出版されました。2014 年 11 月 23 日に、小松電機産業株式会社が主催する出雲から陽が昇るシンポジウムの間、この本の第一版が日本の松江市で発表された。

夢を信じない人は、現実主義者ではない

小松 様へ

昨年、ハーグ平和宮 100 周年記念の際、カーネギー財団からベルタ・フォン・ズットナー（1843 年～ 1914 年）の彫刻の作成の依頼をいただきました。素晴らしい彫刻を作るために、彫刻家の主題に没頭する必要があります。この目的のため、この本の出版社であるマリアンヌ・クライウェグト女史と私はベルタの足跡の一部をたどる旅行をすることに致しました。そこで私の人生を変えるような旅へ小松様をお連れしたいと思っております。

その頃のベルタ・フォン・ズットナーは、世界で最も有名な女性です。彼女は作家、平和活動家でノーベル平和賞を受賞した最初の女性で、アンドリュー・カーネギーの寄付により創設された平和宮のスピリチュアルの母です。彼女の本、Die Waffen nieder!（武器を捨てよ！1889 年）では、戦争が歴史の中でまさに初めて、自宅に滞在している人の視点から記述されています。彼女は、戦争は名誉と男性的だという、彼女の同時代の一般的な見解に挑戦しています。これは前例のない規模の平和運動になります。この戦いの翌日、アンリ・ディナンは非道な虐殺に直面し、このことが赤十字の創設の契機となりました。事実、ヨーロッパ各地の異なる場所で異なる人々が約 30 年間にわたり、同じようなビジョンを発展させ、思想のために食料をささげています。広範囲である種の集団的考え方があったのでしょうか？

私たちが旅行に出発する前に、国務大臣のピーター・コーイマンズ氏は私のスタジオへ訪問してくださいました。コーイマンズ氏はオランダの外務大臣であったとともに、平和宮にある国際司法裁判所で裁判官を 8 年間務めました。彼と私は関連する彫刻を作成するために回答の必要がある唯一の重要な質問に結論をだしました。「今の時代であれば彼女はどのような人になっているだろうか？彼女はグリーンピースのメンバーになっているだろうか？彼女はアムネスティ・インターナショナルのメンバーになっているだろうか？はい。彼女は受け入れられるだろうか？いいえ」今日に至るまで、彼女の全体的な軍備縮小に対する訴えは非常に革命的なものになっています。コーイマンズ氏訪問は私が求めているインスピレーションを与えてくれます。これは一生に一度のチャンスです。19 世紀の時代の女性を描いたことはありませんが、この時代と現在に生きている女性は：賢く、誇り高く、情熱的で、インテリジェントで、粘り強く、クリエイティブであるけれどまた難しい、というもの。全てを使用する女性、彼女の戦いのために全てという意味です。刺激を与える彫刻。

2013 年 3 月、私達はベルタ・フォン・ズットナーの遺灰が地下墓室に保管されているドイツの都市、ゴータへドライブしました。オランダの花束をお供えしました。その後、ヨーロッパの最大都市の宮殿の一つ、彼女が生まれたブラハへドライブしました。彼女の人生は小説のように始まっています。彼女は貴族の軍事家族キンスキー・フォン・ヴヒニッツ・ウント・テッタウ家の縁戚です。彼女が生まれる前に父親は亡くなりました。彼女の母親はギャンブル依存症があり、ベルタの遺産を賭け事で失いました。結婚適齢期で、ベルタは三人の王子のプロポーズを断り、彼女は社会階級の女性には偉大な恥である、自立をすることを決意しました、これが彼女の最初の抵抗行為となります。

彼女はバロン・フォン・ズットナー家の中で仕事の口を得ました。ベルタと彼女より 7 歳若いフォン・ズットナーの息子は、恋に落ち、このことは彼らの家族を失望させました。状況が耐え難いものになると、ベルタはア

ルフレッド・ノーベルのために働くためにパリに向けて旅立ちました。彼は駅で驚くほど美しいベルタに出会ったとき、狂ったように彼女への恋に落ちました。彼はマナーを忘れ記憶に残る言葉を発しました。「マダム、あなたの心はまだ自由ですか？」彼らの仕事上でのつきあいは短いものでした。ベルタはウィーンへ戻り、内緒でアーサー・フォン・ズットナーと結婚しました。アルフレッド・ノーベルは信頼できる男性と知られています。ベルタと彼は生涯友人のままで、必要があれば彼女を財政的にサポートしました。夫婦の親族は激怒し、彼らを追放しました。彼らは露土戦争に直面したコーカサスに居住をかまえました。ベルタは自らの目で屈辱と戦争の混乱を見てきました。これに対する反応として、彼女は「武器を捨てよ！」を書いています。これは彼女の2つ目の抵抗行為となります。

武器を捨てよ！がついにオーストリアとドイツで出版された時、本は大流行しました。16カ国語に翻訳され、ヨーロッパ各地で平和運動を互いに訴えました。世界の歴史の中で最初の主な平和運動の事実となりました。ベルタはダーウィンの進化論から、人間は変化できるということを学びました。彼女は、政府が心理的な方法を使用して国民を操作し、戦争行為に国民を動員するということを学びました。彼女の分析は非常に鋭く、対立的で現在でも真実味があります。

ベルタはアルフレッド・ノーベルに何回も平和活動をサポートするように頼みましたが、毎回彼は断りました。私はどうしてか分かる気がします。ダイナマイトの発明者として、ノーベルは戦争によって利益を得ているからです。しかしながらベルタは1896年12月10日にサンレモで亡くなる前までその事実を知らず、ノーベルは、最後の遺言と遺書でノーベル平和賞のための条件を記録します。アンドリュウ・カーネギーの祖母であるリンダ・ソレル・ヒルが私の彼女の祖母とベルタの祖母がとても親密な友人であったことを教えてくれました。ハーグ国際司法裁判所をカリスマ的で、魅力的な建物に建築するようカーネギーを説得したのはベルタでした。「その建物は新時代を表します。これから国々の間違いはこれらの政党の上に

あたる司法権により解決されるでしょう。戦闘行為は非常にオールドファッションでこれ以上必要のないものです。」今日、私たちはこれを言いたい。「平和は素晴らしい。」

小松様の本を読ませていただき、国際平和の文やで人間自然科学研究所の試みを勉強させていただきました。平和について言及される際、調和の延長としてそれを見ていらっしゃると思います。調和は、おそらく異なる形で経験し、西洋の世界のそれよりアジアで深く根ざしている概念であると思います。ヨーロッパの歴史は、2つの世界大戦で最高潮に達する雄割のない戦いと流血で構成されています。第二次世界大戦後、詩人が詩を書くのをやめ、彫刻家は美の検索をやめてしまうほどひどいものでした。芸術の世界は損なわれ、沈黙となりました。ドイツは終わりのない謝罪を提示しています。賠償（Wie dergutmachung）という名のプログラムが設定されています。ドイツが多くのダメージを引き起こした場所で、ドイツの民間ボランティアがそれらの修復をしています。これはドイツ政府によって行われる、すべての賠償の支払いと無関係です。今日でも主に若者たちに、戦争、平和と共存のメカニズム知らせることに焦点を当てたプログラムがあります。

私が6歳の時に私は学校に行き始めなければならませんでした。父は本棚から地図帳を取るように言いました。私は父の膝の上に座り、父はヨーロッパの地図を見せてくれました。「見てごらん、イングリット。私たちが住んでいるこの小さな国はドイツだよ。すぐに君は学校に行くことになり、他の人たちが君の教育に干渉し始めるようになる。」戦争は約14年で終了したにも拘わらず、それはまだ大きな問題でした。「あなたが教室にいる時、教師や子供の一人は“krauts”[ドイツ系の人を指す差別語]について話します。あなたは立ち上がり、教室の外に歩き出てまっすぐ家に帰るでしょう。友達になるために私たちは全力を尽くす必要があります」戦争中、3つのキャンプを生き抜いた男性は、自分の子どもたちに復讐という感情を持って行き抜いてほしくありませんでした。過去を振り返ると、この態度が私の父をヒーローとさせたことがわかります。彼は私達に心を開き、

可能な限り自由な人生を初めて欲しいと望んでいました。彼は全てが相互に依存していることを理解していました。私たちは、新しい時代に到達しました。

小松様、この物語の男性と子供は小松様のお話でもあると思います。あなた自身のお言葉では「私達は今衣食住の基幹産業において国際分業を通し、現在すべて相互に依存しており、戻れない地点に達している。」あなたのゴールに達成するのに、さまざまな方法を採用していらっしゃる。あなたも芸術に関与しているという事実に私は大いに感銘し、なぜかをご説明したいと思います。芸術が物理的な思想だとしたら、ベルタ・フォン・ズットナーを表現している彫刻は何の機能となりえるでしょうか？彫刻は、時間が静止している瞬間であり、連続的な思考や連想を並べた結果です。思考の本質は明確かつ普遍的であるならば、芸術品は、思いがけなく積み重なった本から得るものよりも深く、理解力のある洞察力を与えることができます。芸術品は一目で心に影響し、後になって頭に達していく。芸術品が見物人を感動させた場合、それはまた人を動員することができます。見物人は行動に駆り立てられることがあります。そしてこれはまさに小松様が研究所で達成したいことだと思います。小松様は人類にとって望ましい将来への平和への取り組み、想像、反映させることを望んでいます。積極的な取り組みを求めています。核の超大国が接触する日本列島と朝鮮半島で、史上初めて人類の進化のために共感の舞台を構築するのがあなたの夢です。これはアメリカのスマートパワー、中国の hexie（調和）、韓国 hwajaeng（調和）と日本の wajoo（調和）から学んだことによって成しえると考えています。沖縄については、3つの主要機関の構成の中心となる永遠の世界平和の島になって欲しいという夢があります。

人間自然科学研究所を代表して、小松様は朝鮮半島と日本の三大核保有国の協力的な支援を得て非核地帯を作り、和文化の発祥地として領域の指定を計画したいと思われています。また、核兵器を持つすべての国の核軍縮は着実に、同時に始める必要があると小松様は信じています。同時に、それは言葉上のものです。ハーグに刺激を与える彫刻と松江で刺激を与える彫

刻があります。ハーグでは若者が戦争や平和について考えることに触発されています。彼らは個人が常に立ち上がり、違いを作ることができるという事実を認識しています。ベルタ・フォン・ズットナーは集団思想が存在した時代に生きていました。私たちが今、自分自身に尋ねるべき質問は：私たちが蔓延した集団的思考の時代に生きていますか？そうであれば、私たちはどうしたいのでしょうか？

シェイクスピアは芸術家たちは自分の時代の真の証人であると述べています。しかし芸術はただ自分の時代の証明を担うよりもっと意味があります。芸術は、変形することができます。言いようのない感情、想像を超えた困難への深い願望からの変化、それら直接表現しない議論を引き起こします。それは想像不可能を想像可能にするメカニズムです。この問題に関してアルバート・アインシュタインはこう述べています：「想像力は知識よりも重要である。知識と理解に限界があるが為に、想像力が世界をとりまき、発展を刺激しつづけ、進歩に息を吹き込みつづけているのだから。」文学と視覚芸術は想像力を高めます。芸術は私たちの良心を動かします。誰か他の人の立場に自分を置くことによって、もう一方はより身近になり、破壊はもはや選択肢にありません。敵に顔を見せてください。

小松様、あなたはこの世界の美しい未来についてビジョンがあるだけではなく、またそれに達するために必要な手順をお持ちです。私はあなたに深い敬意を持っており、全ての重要な人々は彼らの夢に従い始めたということが言えます。これは輪を縮めることになります。夢を信じていない人は、現実主義者ではない。

温かい心を込めて、そして…平和は素晴らしい。

イングリッド・ロレマ

为了对小松昭夫 (Komatsu Akio) 先生、及其团队 ---「财团法人 人间自然科学研究所」为世界和平所作出的贡献表达敬意和感谢，在荷兰出版社 De Bovenkamer 出版了一小册子《不相信梦想的人就不是现实主义者》。该书第一版于 2014 年 11 月 23 日，由小松电机产业公司在日本岛根县松江市举办的“阳光从出云升起”国际研讨会上与读者见面。

《不相信梦想的人就不是现实主义者》

尊敬的小松先生：

去年，卡内基基金会委托我为海牙和平宫百年纪念会创作一座贝尔塔·冯·苏特纳 (Bertha von Suttner, 1843-1914 年) 雕塑。为了创作出优秀作品，雕刻者必须把自己沉侵到创作主题中去。为此，我和本书出版者 Marianne Kleijwegt 决定沿着贝尔塔的一些足迹，开始了一段旅程。在此我想带您回顾这段我是如何改变我的生活的旅途。

那时的贝尔塔·冯·苏特纳是世界最著名的女士。她是一位作家、和平活动家、诺贝尔和平奖的首位女性获得者，又是安德鲁·卡内基 (Andrew Carnegie) 赞助建成的国际法庭 (又称“和平宫”) 的精神之母。她在小说《放下武器！》(Die Waffen nieder!)，从一般民众家庭的角度来描述战争，这在文学史上是第一次。她在书中挑战了同时代人的普遍观点——战争是男子汉的荣耀，从而促发了前所未有的和平运动浪潮。《放下武器！》开篇就讲述了索尔弗利诺战役 (1859 年)。这场战役后的第二天，亲眼目睹了那场史无前例的大屠杀的亨利·杜南 (Henry Dunant) 决定成立红十字会。事实上，在此后近三十年内，不同的人在不同的地方在欧洲各地发展类似的愿景，提供精神食粮。这一事实引人深思，当时这种广泛的集体心态是不是普遍存在呢？

在我们的旅行开始之前，国务大臣彼得·科艾曼斯 (Peter Kooijmans) 来到我的工作室。科艾曼斯 (Kooijmans) 曾担任荷兰外交部长，连任八年国际法庭法官。我和他都认为要创作出理想的雕塑，只需回答这样一个重要问题：“要是今天，她会成为什么样的人？她会是绿色和平组织的成员吗？如果答案是否定的，那她会是国际特赦组织的成员吗？如果答案是肯定的。那她会被人接受吗？不”。即使到了今天，她所呼吁的全面裁军都是激进革命性的。科艾曼斯 (Kooijmans) 的来访给了我灵感。这是一个千载难逢的机会。我知道我不能把她塑造成一个来自 19 世纪的女性，而是一个生活在当下的女性：聪明、自豪高傲，热情、明智、顽强、富有创造性，当然她也有她的独特之处。为了她的抗争使用我拥有的一切。我创造的雕像必须要能激励鼓

舞人心。

2013 年 2 月，我们驱车前往德国城市哥达，贝尔塔·冯·苏特纳的骨灰被保存在这里的地下墓场。我们给她献上了一束荷兰鲜花。之后，我们又驱车前往她的出生地布拉格，欧洲最大的城市宫殿之一。她的人生如同一部小说展现在眼前。她出身于军事贵族家庭弗朗茨·麦克尔·金斯基伯爵 (Kinsky von Wchinitz und Tettau)。她的父亲在她出生前就已过世。她的母亲赌博成瘾，将贝尔塔继承的财产全部耗尽。到了适婚年龄，贝尔塔拒绝了三位王子的求婚，决定独立生活；在她那个社会阶层，这无疑是一个巨大的耻辱。这是她的第一次反抗行动。

她在冯·苏特纳 (Von Suttner) 男爵家里获得一份工作。令男爵家人失望的是，贝尔塔与他的儿子阿瑟相爱了，阿瑟比她小七岁。在苏特纳家族强烈反对的情况下，贝尔塔离开苏特纳家，来到巴黎为阿尔弗雷德·诺贝尔 (Alfred Nobel) 工作。当阿尔弗雷德·诺贝尔在车站见到美丽动人的贝尔塔时，他疯狂地爱上了她。他将礼仪抛之脑后，说出了难于忘怀的经典之词：“女士，您的心还是自由吗？”。他们的工作关系很短暂。贝尔塔回到维也纳，秘密嫁给阿瑟·冯·苏特纳 (Arthur von Suttner)。阿尔弗雷德·诺贝尔仍然表现出了被信赖的绅士风度。贝尔塔和他一生一直保持着良好的朋友关系，她在她必要时给予她经济帮助。但贝尔塔夫妇的亲友们对此非常愤怒，排挤驱逐他们。他们在高加索地区定居，在那里他们目睹了可怕的俄土战争。贝尔塔亲眼看到了战争的恐怖残忍和破坏力。于是，她写下了《放下武器！》。这是她的第二次反抗行动。

当《放下武器！》最终在奥地利和德国出版时，成为畅销书风靡一时，并被翻译成 16 种语言。欧洲各地的和平运动开始互相交流合作。世界历史上首次的大型和平运动变成一种事实。贝尔塔从达尔文的进化论学到了人类有能力改变自己。她研究了政府用来操纵人民、动员人民参与战争的心理方策。她的分析非常尖锐，直到今天都具有说服力。

贝尔塔多次寻求阿尔弗雷德·诺贝尔支持和平运动，但每次都被他拒绝。我想这可能是诺贝尔作为炸药的发明者，靠战争获取利润的原因吧。然而，贝尔塔在诺贝尔于 1896 年 12 月 10 日在圣雷莫去世前，对诺贝尔将诺贝尔和平奖的条款（为了让贝尔塔能够获奖似的）记录于他最后的遗嘱中之事一无所知。安德鲁·卡内基 (Andrew Carnegie) 的孙女琳达·索雷尔山 (Linda Thorell Hill) 告诉我，她的祖父跟贝尔塔是很好的朋友。是贝尔塔说服卡内基 (Carnegie) 将海牙仲裁常设委员会设在建设这样一座具有魅力的宏伟建筑中的。贝尔塔说“这一建筑将代表一个新时代。从现在起，不同国家之间

的差异将被这样一种凌驾于所有派别之上的司法权来加以解决”。战争已经过时了，不再有必要了。今天我们会说：“和平是美好的。”

小松先生，我阅读了您的书，了解了人间科学研究所国际和平领域所作的努力。当谈论平时，您认为这是和谐的一种延伸。和谐，跟我们欧洲的应用形式有所不同，是一个扎根于亚洲而非西方世界的概念。欧洲的历史由无尽的战争和流血冲突构成，最终在第二次世界大战中达到顶峰。这些是如此可怕，二战后诗人不再撰写诗文，雕塑家也停止了寻找美丽的步伐。艺术世界受损，变得沉默。德国表达了无尽的谢罪道歉。设定了赔偿（Wiedergutmachung）计划。在德国地方造成的大量损伤，德国民众自愿进行修复。这与德国政府进行的所有赔款无关。即使是在今天，有一些计划仍然专注于让年轻人了解战争、和平以及和平共处的机制。

我六岁那年开始上学。我父亲让我从书架上拿出世界地图。我坐在父亲膝盖上，他向我展示了欧洲的地图。“看，Ingkie，我们生活的这个小国家被称为荷兰。这个大国是德国。很快你将去学校接受教育，你的教育将受到其他人的影响。战争虽然已结束14年，但仍然是一个大问题。”当你在课堂上，老师或其它学生在谈论“德国佬”（krauts，德国人的贬义称呼）时，你就站起来走出教室，径直回家。我们需要尽我们所能成为朋友。”在战争期间，曾被辗转三个集中营而幸存下来的男子，不希望自己的孩子用复仇感开始人生生活。回顾过去，父亲的这种态度让我明白了父亲是一名英雄。父亲希望让我们以开放的心态、尽可能以最自由的方式开始生活。父亲明白我们都是相互依存的。我们已经来到一个新的时代。

小松先生，我认为这个男子和孩子的故事也是您的故事。用您自己的话说：“我们通过衣、食、住等基础行业的国际分工变成相互依赖关系，已达到了无法挽回的地步。”为了达到目标，您采用了各种方法，其中还涉及艺术，这使我大受感动，我想试图谈一下其理由。如果艺术是一种物理性的思想，表现贝尔塔·冯·苏特纳的雕像能起到一种什么作用呢？”。雕塑是静止的瞬间，是罗列一系列连续的想法和联想的结果。如果思想的本质是明确和普遍的，艺术品就可以得到意想不到的效果，给人表现出有理解能力的观察力，比一堆书本得到的要更全面和更深入。艺术品是看一眼就能冲击人的心灵，而后传达到头脑。如果一件艺术品感动吸引着观众，就能调动观众。观众就可能会被带动起来，并采取行动。而这正是您的研究所想要达成的目标。您希望人类为和平而努力，想象思考他们所期望的未来。您希望人们都采取积极的态度。您的梦想就是要在三个超级核大国交接的日本群岛和朝鲜半岛之间建立一个彼此可以为对方着想的认同平台。您认为，通过学习美国的巧实力、

中国的和谐、韩国的和净（hwajaeng）（和谐）和日本的和让（wajoo）（和谐）思想可以实现这一梦想。您有一个梦想——冲绳将成为涵盖三个主要机构中心的永恒的世界和平之岛。

第一：世界战争与和平图像和视频中心，第二：纪念碑塔，第三：和之宫（和即和平/和谐）。

您将代表人间科学研究所提出在三个核大国的强烈支持下让朝鲜半岛和日本成为无核武器地区，并将其作为和文化的发源地。您坚信所有拥有核武器的国家将步调一致地逐步地裁减核装备。是的，步调一致是关键！在海牙和松江都将竖起这样一座激励人心的雕像。在海牙，年轻人已受启发开始思考战争与和平。要让他们认识到个人也是有能力站出来发挥作用的。贝尔塔·冯·苏特纳生活在一个集体心态存在的时代。我们现在应该反问自己：我们也还生活在集体心态普遍存在的时代吗？如果是这样，我们对其集体心态如何对应呢？

莎士比亚说，艺术家是他们生活的那个时代的真实见证者。但艺术不仅仅只是见证自己的时代。有更进一步的意义，即，艺术有能力改变事物。这是种无法言喻的情感，从深层渴望到难以想象的艰难，无法直接道明但却能够进行探讨。正是这种机制使得征服难以想象的困难成为可能。在这个问题上，爱因斯坦曾经说过：“想象力比知识更重要。知识只局限于我们现在知道和了解的，而想象力包含整个世界，即所有我们想要知道和理解的事物。”。文学与视觉艺术可提高想象力。艺术调动我们的意识。设身处地为他人着想，彼此就能变得更加亲近熟悉起来，就不会选择破坏。敌人也有脸面，请给他们留有余地。

小松先生，您不仅有一个美好的世界未来的愿景，而且知道实现这一愿景所需的步骤。我非常尊重您，可以说所有重要人士都是从追随自己的梦想起步的。这将形成一种循环。任何不相信梦想的人都不是现实主义者。

在此致以深切的慰问.....和平才是美好的！

Ingri Rollema



Members of the Human Nature Science Institute



Munich 1907 Universal Peace Congress.
Bertha von Suttner: front row second from the left



Bertha von Suttner





Bertha von Suttner



“꿈을 믿지 않는 사람은 참된 현실주의자도 아니다.” 네덜란드 출판사 드 보벤캄멜(De Bovenkamer)가 펴낸 책 이름입니다. 이 책은 아키오 고마츠 선생과 동료들이 세계평화를 위하여 추진하는 인간자연과학연구소(人間自然科學研究所)의 노력에 대한 작은 찬사의 뜻으로 2014년 11월 23일 일본 마쓰에에서 고마츠전기산업주식회사(小松電機産業株式會社)가 주최하는 The Sunrise from Izumo라는 학술회의에서 그 첫 번째 책을 증정하는 것입니다.

“꿈을 믿지 않는 사람은 참된 현실주의자도 아니다.”

친애하는 고마츠 선생님,

작년(2013) 카네기재단은 헤이그에 있는 평화궁(Peace Palace) 100주년 기념으로 베르타 본 슈트너(1843-1914) 동상을 제작하도록 저에게 위탁해주었습니다. 고마츠 선생, 제 인생에 변화를 주었던 이야기를 먼저 하고자 합니다. 훌륭한 조각품을 만들기 위하여, 한 여성 조각가인 저는 슈트너 여사의 참 모습을 최대한 표현하기 위하여 이 책의 출판인인 마리아노스 크라이웨그트와 함께 베르타 본 슈트너 생애의 중요한 발자취를 더듬어 보기 위한 여행을 하기로 했습니다.

그가 살던 시대, 그는 이 세상에서 가장 위대한 여성이었습니다. 그는 훌륭한 문필가인 동시에, 평화운동가였습니다. 여성으로서(1905년) 첫 번째로 노벨 평화상을 수상하였습니다. 또한 그는 이곳에 평화궁을 건립하는데 결정적인 역할을 하였습니다. 당대의 철강왕 안드류 카네기(1835-1919)가 이 평화궁 건립을 위해 당대의 거금(백오십만 불)을 지원하는데는 그의 역할을 빼놓을 수 없습니다. 그는 실로 이 평화궁 건립의 정신적 어머니라고도 할 수 있습니다. 1889년에 펴낸 그의 역작.. “무기를 내려 노아라!” (“Die Waffen Nieder!” “Lay down your arms!”)라는 책은 당대의 평화운동에 커다란 영향을 끼쳤습니다. 평범한 사람들이 전쟁에서 당하는 고통을 서술한 이 책은 전쟁영웅을 우려 보고 애국심을 고취하는 전쟁예찬론자들에게 대한 중대한 도전이었습니다. “무기를 내려 노아라!”라는 이 책은 슐체리노 전투 이야기부터 시작합니다. 훗날 스위스의 헨리 두낭은 그가 적십자(Red Cross)운동을 시작(1864)하는 데는 이 전쟁의 참상들이 결정적인 역할을 했다고 증언한 바 있습니다. 당대 유럽 전역에서 슈트너가 정신세계에

끼친 영향은 대단하였습니다.

우리가 여행을 준비할 즈음에, 피터 코이만(Peter Kooijmans) 장관이 제 작업실을 방문했습니다. 코이만은 네덜란드 외무장관과 평화궁내 있는 국제사법재판소 판사를 8년간 역임한바 있는 유명한 법학자인 동시에 법관이었습니다. 그와의 만남에서 우리는 새로 만들게 되는 슈트너 조각에 대하여 논의하였습니다. 조각인물을 표현하기 위하여 중요한 질문: 현 시대라면 이 여성이 어떤 인물일까? 오늘날로 말하면 Greenpeace의 인물일까? 그건 아니요. No. 그렇다면 국제사면위원회(Amnesty International)의 한 인물일까? 네. Yes. 그러나 그것도 슈트너는 동의하지 않을 것입니다. 그 이유는 오늘날에도 그의 주장 즉 전면적인 무기금지(total disarmament)는 지나치게 혁명적이기 때문입니다. 코이만(Peter Kooijmans) 박사와의 만남을 통하여 나는 크게 감명을 받았고 내 인생에 전환점이 되었습니다. 그리고 내가 만들 작품의 작품상(作品象 Image)을 19세기적인 여성상에서 탈피하여, 지혜롭고, 당당하고, 정열적이며, 지성적이고, 강인하고, 창조적이고 또한 감히 접근하기 어려운 현대 여성상으로 결정하였습니다. 그가 추구하는 것을 달성하기 위하여 전력투구하는 여성상으로 저는 이를 위하여 최선을 다 할 것입니다.

2013년 2월, 우리는 자동차를 운전하여 베르타 본 슈트너의 유골 안치소가 있는 독일의 작은 도시 Gotha로 갔습니다. 그리고 네덜란드에서 가지고 간 화환을 유탁에 바쳤습니다. 계속해서 우리는 그가 태어난 소련에서 아주 큰 도시인 프라하로 갔습니다. 그분의 생애가 한편의 소설처럼 펼쳐졌습니다. 그는 그 곳에서 군 고위 장교인 킨스키 본 웨이니츠(Kinsky von Wchinitz)와 어머니 Tettau 사이에서 태어났습니다. 그러나 그가 태어나기 전 그의 아버지는 별세하였고, 어머니는 도박에 빠져 가산을 모두 탕진하였습니다. 그가 결혼할 나이에 접어들자 그는 세 명의 왕자의 청혼을 뿌리치고 스스로 고난의 길을 택했습니다. 아마도 이것이 그가 첫 번째로 보통의 여성으로서의 생각할 수 없는 생애 첫 번째의 반항의 길이었을 것입니다.

그는 본 슈트너경 가정의 가정교사로 들어가게 됩니다. 그런데 이 본 슈트너 가정에는 그보다 7세 연하의 아들이 있었는데 그만 그와 사랑에 빠지게 됩니다. 이 사실을 안 그 가정의 부모들의 반대로 그는 그 집을 나와야 합니다. 그때 마침 한 신문에 구인광고를 보고 그

가 파리로 가서 만남 사람은 다름 아닌 노벨이었습니다. 그리고 알
프렛 노벨(Alfred Nobel, 1833-1896)의 일을 돕게 됩니다. 그런데 그
때까지 미혼인 노벨(Alfred Nobel)은 베르타를 보자마자 첫눈에 반하
여 “당신 아직 미혼이십니까?” 라는 말로 은근히 청혼을 하게 됩니다
(그 당시 노벨은 43세, 베르타는 33세로 두 사람 다 미혼이었음). 그
러나 그들의 만남은 잠시, 노벨 이 출장차 파리를 떠나 있는 사이 베
르타는 비엔나로 돌아와 비밀리에 위에서 말한 가정교사집 아들 알
서 본 슈트너 (Arthur von Suttner)와 결혼을 합니다. 결혼 후 그들은
친척들의 냉대로 비엔나를 떠나Caucasus (Georgia)지방으로 도피생
활을 합니다. 기이한 것은 비록 짧은 만남이었지만 노벨과 베르타는
긴 우정을 이어갑니다. 비록 타인의 부인이 되었지만 베르타가 원하
면 노벨은 언제나 기꺼이 그의 재 정적인 후원자가 되었습니다.그들
이 Caucasus(Georgia)에 사는 동안 러시아와 터키 사이에 전쟁이 발
발했습니다. 그들의 눈에 비친 전쟁의 비참한 참상을 보고 드디어 “무
기를 내려 노아라!”(“Die Waffen Nieder!” “Lay down your arms!”)라
는 소설을 쓰게 되었습니다. 이는 집을 나온 이후 베르타의 두 번째
의 반향입니다.

“무기를 내려 노아라!” 라는 책이 1889년 처음으로 오스트리아와 독
일에서 발간되 자 큰 선풍을 일으켜 그 후 16개국어로 번역되는 등 그
당시 전 유럽에서 태동하 고 있던 평화운동에 크게 영향을 미쳤습니
다. 그는 할스 다윈의 진화론에 영향을 받아 인간은 변할 수 있다는 생
각을 하게 됩니다. 그리고 정부는 사람들을 선동하 여 전쟁을 일으킨
다 라고 생각했습니다. 그의 예리한 생각과 판단은 오늘에도 시사 하
는 바가 있습니다.

베르타는 노벨에게 여러 차례 평화운동을 도우라고 요청하였다. 그 때
마다 노벨은 그의 청을 거절했는데 그도 그럴 것이 전쟁에 사용되는
폭약인 다이나 마이트를 만든 장본인이었기 때문에 죽히 이해되는 바
이기도 하다. 그런데 베르타의 요청이 주효하여 1896년 12월 10일 산
레모(이태리(San Remo)에서 마지막 숨을 거두기 전 노벨은 그의 유언
에서 노벨 평화상을 추가하였다. 안드류 카네기(Andrew Carnegie) 외
손녀 Linda Thorell Hill은 2013년 헤이그에서 저를 만났을 때 그의 할
아버지는 생전 시 베르타와 매우 친분이 두터웠으며, 그의 권유에 의
하여 평화궁내 로 국제중재재판소(PCA, Permanent Court of Arbitra-
tion)를 이전토록 했다고 한 다. “이 평화궁은 새로운 세기를 맞아하여

국제분쟁을 해결하기 위한 사법적 기구로서의 역할을 계속 이어갈 것
이다. 전쟁은 절대적으로 구시대적 유물입니다. 더 이 상 전쟁은 용납
해서는 않습니다.” 오늘 우리는 외쳐야 합니다.
“Peace is hot!” :: 평화는 최고의 선택! 이라고 ..

고마츠 선생님, 저는 당신의 책을 읽고 당신이 주도하고 있는 ‘인간자
연과학연구소’가 국제평화를 위하여 노력하는 것을 뜻 깊은 일이라고
생각하였습니다. 선생께서 는 평화(Peace)를 조화(Harmony)의 연장
이라고 표현했습니다. 조화는 서로 간 다른 것을 인정하는 것이며 이
는 서양보다 동양사상에 깊이 뿌리박고 있다고 생각 합니다. 유럽 역
사는 전쟁으로 이어졌습니다. 급기야 지난 세기에는 두 차례의 세계
대전을 치루기까지 하였습니다. 전쟁은 참으로 무서운 것이었습니다.
전후 시인들은 그들의 시작(詩作)을, 조각가들은 그들의 창작 활동을
전후추었습니다. 창작의 세계가 마비되었습니다. 드디어 전쟁병 독일이
사죄의 입을 열었습니다. 그들은 끊임 없이 용서를 빌었습니다. 그리
고 정부차원의 보상이 이루어 졌습니다. 그 뿐만 아닙니다. 정부와는
별개로 독일 민간 차원에서는 파괴된 지역을 찾아가 복구활동을 벌
이기도 하였습니다. 오늘에도 젊은이들을 상대로 전쟁, 평화, 그리고
공존에 관한 교육 프로그램이 계속 진행되고 있습니다.

제가 6살이 되자 학교를 다니기 시작했습니다. 그 때 아버지께서는 저
에게 책상 에서 지도를 꺼내오라고 하셨고, 유럽 지도를 보이면서 “잉
키야, 지도를 잘 봐라. 이 작은 나라가 우리가 살고 있는 네덜란드인
다. 그리고 바로 옆에 있는 큰 나라 는 독일이란대. 너는 곧 학교에 가
게 될 터인데 다른 사람들이 좋지 않은 말로 자라나 는 너를 괴롭힐지
도 모른다.” 전쟁이 끝난 지가 14년이 흘렀는데도 말이다.
교실 안에서 선생님이나 또는 다른 학생이 너에 대하여 좋지 않은 이
야기를 하면 너는 벌떡 일어나서 곧바로 집으로 오게 될지도 모른다.
그렇지만 우리는 참고 최 선을 다하여 그들을 친구로 만들어야 한다.
저의 아버지는 전쟁 중 세 군데에서 수 용소 생활을 하였습니다. 그러
나 아버지는 그의 자식들이 이에 대한 복수심을 갖고 살기를 원치 않
았습니다. 돌이켜 보니 그의 이와 같은 자세는 영웅적이라고 저는 생
각합니다. 그는 우리 젊은이들이 열린 마음과 자유를 갖고 살기를 소
망했습니다. 그는 우리 모두는 서로 상호 협조관계라고 하였습니다.
우리는 이와 같은 새로운 시대에 살고 있습니다.

고마츠 선생님,
위에 말한 아버지와 자식 사이의 이야기는 곧 당신의 이야기입니다. “우리 모두는 의.식.주를 서로서로 남에게 의존하여 살고 있고 있습니다.” 라고 당신은 말씀합니다. 당신의 이상을 달성하기 위해 당신은 여러 방법을 동원하고 있습니다. 또한 당신이 예술적이라는 사실에 저는 많은 감동을 느끼는데 그 이유를 설명하도록 하겠습니다. 예술이 고정관념을 갖고 있다면 베르타 본 슈트너를 제대로 표현할 조각의 성격이 무엇이었습니까? 조각은 흐르는 시각의 한 정지된 지점으로서, 지속적인 사고와 융합의 줄거리에서 분출되는 결과입니다. 사고의 심오함이 명확하고 우주적이라면, 가장 순수한 곳에서부터 예술 작품이, 많이 쌓여있는 책에서 보다 더 깊고 이해할 수 있는 통찰력을 준비하게 될 것입니다.

예술 작품을 위한 첫 번째의 동기는 가슴으로부터 시작하여 그 다음 머리로 이어지게 됩니다. 한 예술작품이 사람의 마음을 감동시키면, 그 감동은 주위 사람들에게로 이어집니다. 이것이 바로 당신과 당신의 연구소가 추구하는 소망입니다. 당신은 세 계인들이 평화를 소망하고 그리고 그와 같은 평화의 세계가 도래하기를 소망하고 있습니다. 당신은 열정적인 자세를 요구하고 있습니다. 삼대 핵강국이 만나고 있는 일본열도(Japanese archipelago)와 한반도에 사상 최초로 인간의 생각이 바뀌어 새로운 무대가 펼쳐지기를 원하는 것이 당신의 꿈입니다. 당신은 이것이 오늘 미국의 막강한 힘과 중국의 和諧(hexie.harmony), 한국의 和爭(whajaeng 화쟁.harmony), 일본의 和譲(wajou.harmony)이 합친다면 그 꿈이 이루어 질 수 있다고 믿습니다. 당신은 오기나와가 세계 영구 평화의 섬이 되기를 소망하는 꿈을 갖고, 그 안에 세 개의 주요 기관을 설치하기를 희망하고 있습니다.

첫째: 세계대전과 평화에 대한 사진 및 영상 센터
둘째: 기념탑
셋째: 평화궁(Peace/Harmony)

인간자연과학연구소의 이름으로, 당신은 한반도와 일본이 삼대 핵강국의 적극적인 도움 속에 비핵화시대가 되기를 소망하며, 아울러 평화문화의 산실로 지정되기 위한 제안을 하고 있습니다. 또한 핵무기를 갖고 있는 모든 국가들이 단계적인 핵철 폐를 동시다발적으로 시작하게 되어야 한다고 믿습니다. 동시다발적으로 : 바로 그 단어.

헤이그에는 영감을 주는 동상 한 개가 있고 그리고 일본 마츠에에도 한 개의 동상이 있습니다. 이 동상은 헤이그에서 많은 젊은이들에게 전쟁과 평화에 관하여 깊이 생각하도록 해 줍니다. 그리고 그들은 각자 자립하며 그리고 스스로의 개성을 갖고 사는 법을 익힙니다. 베르타 본 슈트너는 집단사상이 만연하던 시대에 살았습니다. 그런데 우리가 지금 스스로 질문해야 하는 것은: “우리 또한 집단사상이 만연한 시대에 살고 있는가? 임니다. 만약 그렇다면 우리는 지금 어떻게 할 것입니까?”

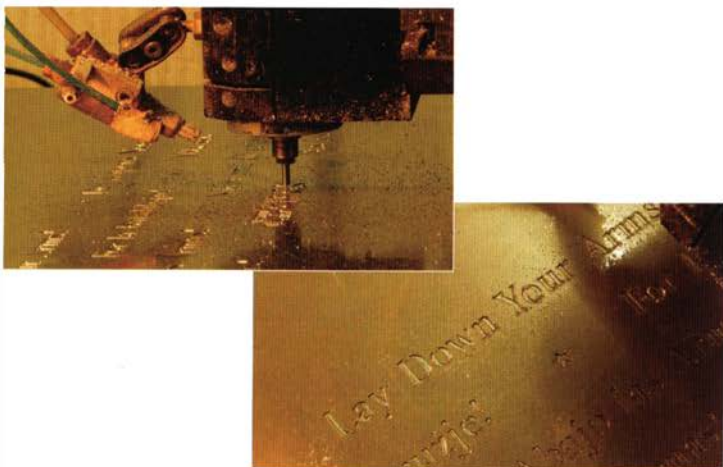
엑스피어는 ‘예술인들은 그들 시대의 참 증인’이라고 말하였습니다. 그러나 예술은 그들 시대를 증언하는 그 이상의 더 많은 위력을 갖고 있습니다. 예술은 변화시키는 힘이 있습니다. 말할 수 없는 감정이 있을 때, 마음 깊은 그리움이 있을 때, 상상을 초월하는 역경이 있을 때, 그 내용들을 일일이 지적하지 않으면서도 그 감정들을 표현하는 것이 바로 예술입니다. 상상할 수 없는 것을 상상케 할 수 있는 기술입니다. 이 논제를 갖고 아인슈타인은 다음과 같이 지적했습니다: “상상력은 지식보다 더 중요하다. 지식과 이해는 한계가 있으나, 반면 상상력은 무한한 능력을 발휘할 수 있다.” 라고..... 문학과 시청각 예술은 상상력을 촉진시킵니다. 예술은 우리들의 의식을 불러 일으킵니다. 타인의 입장을 배려하면 그 사람과 친분이 두터워 질 것입니다. 그리고 더 이상 갈등은 없어질 것입니다. 원수를 미소로 대하십시오.

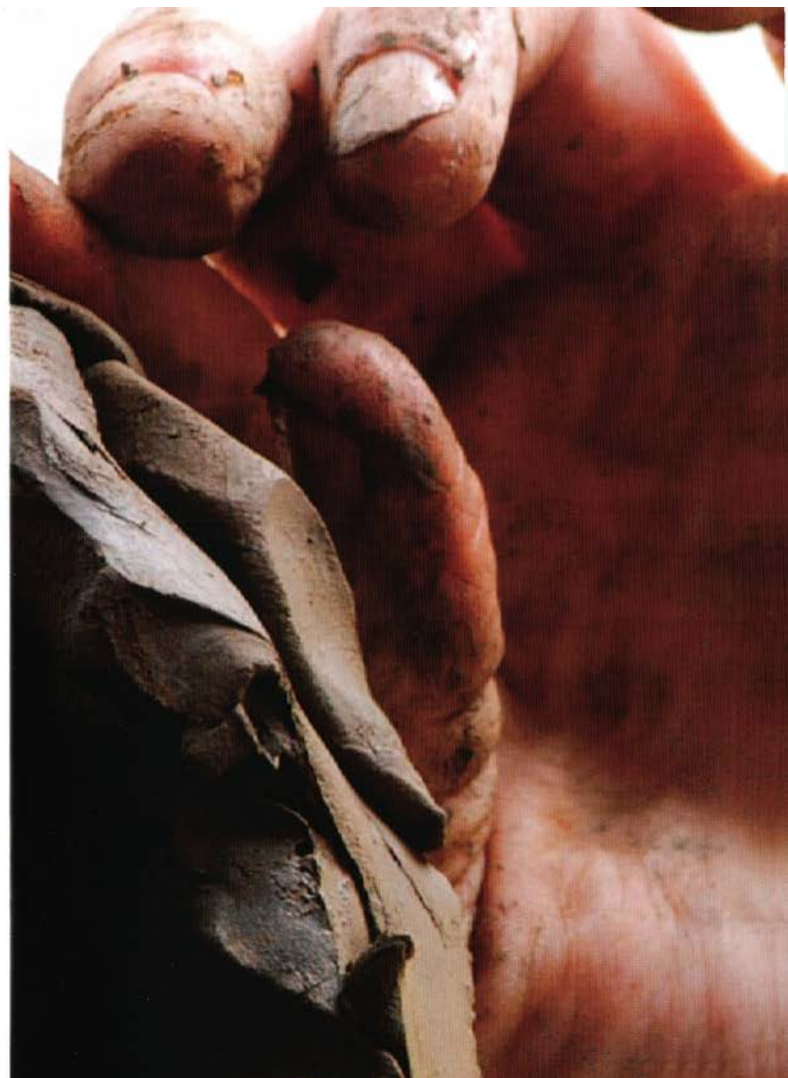
고마츠 선생님,
미래의 아름다운 세계에 대한 꿈을 갖고 계시지만 아니라, 이를 성취하려고 벌써 시작단계에 이르렀습니다. 저는 당신을 깊이 존경하며 관련된 중요한 분들이 꿈을 이루려는 출발을 이미 하셨다고 말씀드리고자 합니다. 이제 저의 이야기들을 마치 고자 합니다.
“꿈을 믿지 않는 사람은 참된 현실주의자도 아니다.”

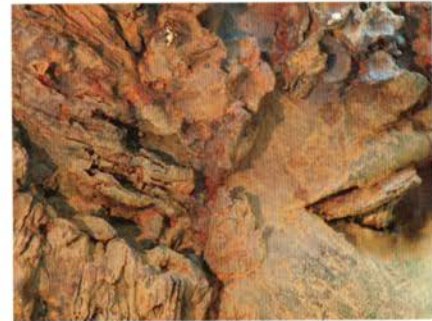
평화는 최고의 선!
(平和 最高善)

감사합니다.

인그리드 롤러마
2014년 10월 20일
네덜란드, 헤이그









**"A MONUMENT FOR BERTHA VON SUTTNER
ON THE OCCASION OF THE CENTENNIAL
ANNIVERSARY OF THE PEACE PALACE IN
THE HAGUE ON AUGUST 28TH 2013".**

النصب التذكاري لبارثا فون سوتنر بمناسبة الذكرى المئوية لقصر السلام في لاهاي في ٢٨ أغسطس

٢٠١٣







Whoever doesn't believe in dreams is not a realist was published by the Dutch publishing house De Bovenkamer as a token of appreciation for the work that Mr. Akio Komatsu and his team at the Human Nature Science Institute do for International Peace. On 23rd November 2014 the first copy of this book was presented in Matsue, Japan, during the Symposium The Sunrise from Izumo, hosted by Komatsu Electric Industry Company.

Whoever doesn't believe in dreams is not a realist

Dear Mr. Komatsu,

Last year the Carnegie Foundation commissioned me to make a sculpture representing Bertha von Suttner (1843-1914) on the occasion of the centenary anniversary of the Peace Palace in The Hague. In order to create a good sculpture, a sculptress has to immerse herself in the subject matter. To this end, Marianne Kleijwegt, the publisher of this book, and I decided to go on a trip to trace some of Bertha's footsteps. I would like to take you on a journey that has been life-changing for me.

In her day, Bertha von Suttner is the most famous woman in the world. She is a writer, peace activist, the first female laureate of the Nobel Peace Prize and spiritual mother of the Peace Palace that was financed by Andrew Carnegie. In her book *Die Waffen nieder!* (*Lay down your arms!*, 1889) war is described from the point of view of the people staying at home for the very first time in history. She challenges the prevailing view of her contemporaries that war is honorable and masculine. This results in a peace movement of unprecedented proportions. *Die Waffen nieder!* opens with the Battle of Solferino (1859). The day after this battle, Henry Dunant witnesses the enormous massacre that had taken place and this prompts him to found the Red Cross. The fact that over a period of about thirty years different people in different places all over Europe developed similar visions, offers food for thought. Could there have been some kind of widespread, collective mindset?

Before we set off on our travels, Minister of State Peter Kooijmans pays a visit to my studio. Kooijmans was Dutch Minister of Foreign affairs and served as a judge for the International Court of Justice in the Peace Palace for eight years. He and I conclude that the only significant question that has to be answered in order to create a relevant sculpture is: 'Who would this woman be today? Would she be a member of Greenpeace? No. Would she be a member of Amnesty International? Yes. Would she be accepted? No.' Even to this day her appeal for total disarmament remains too revolutionary. Kooijmans' visit gives me the inspiration I am looking for. This is the chance of a lifetime. I know I will not be portraying a woman from the 19th century, but a woman living in the here and now: clever, proud, passionate, intelligent, tenacious, creative, but also difficult. A woman who uses everything, and I mean everything, to fight her battle. A sculpture to inspire.

In February 2013 we drive to the German city of Gotha where Bertha von Suttner's ashes are kept at the Columbarium. We leave a bouquet of Dutch flowers. After that we drive to Prague where she was born in one of the largest city palaces of Europe. Her life unfolds like a novel. She stems from the aristocratic military family Kinsky von Wchinitz und Tettau. Her father dies before she is born. Her mother has a gambling addiction and gambles away Bertha's inheritance. When, at a marriageable age, Bertha rejects the proposals of three princes she decides to become self-supporting: a great disgrace for a woman of her social class. It will be her first act of resistance.

She gets a position in the house of Baron Von Suttner. To the dismay of their families, Bertha and Von Suttner's son, who is seven years her junior, fall in love. When the situation becomes unbearable, Bertha leaves for Paris to work for Alfred Nobel. When he meets the stunningly beautiful Bertha at the station, he falls madly in love with her. He forgets his manners and utters the memorable words: 'Madam, is your heart still free?' Their working relationship is short-lived. Bertha travels back to Vienna and marries Arthur von Suttner in secret. Alfred Nobel proves to be a man of honor. Bertha and he remain lifelong friends and whenever necessary he supports her financially. The couple's relatives are furious and banish them. They take up residence in the Caucasus, where they

witness the terrible Russo-Turkish war. With her own eyes Bertha sees the humiliation and disruption of war. In reaction to this she writes *Die Waffen Nieder!* It is her second act of resistance.

When finally *Die Waffen Nieder!* is published in Austria and Germany, the book becomes all the rage. It is translated into sixteen languages. Peace movements all over Europe reach out to each other. The first major peace movement in world history is a fact. Darwin's theory of evolution teaches Bertha that human beings are capable of change. She studies the psychological methods that governments use to manipulate their people and mobilize them for warfare. Her analyses are razor-sharp, confrontational and still ring true today.

Bertha asks Alfred Nobel many times to support the peace movement, but he refuses every time. I think I understand this. As the inventor of dynamite, Nobel profits from warfare. However, Bertha is unaware of the fact that, before he dies in San Remo on 10th December 1896, Nobel records the conditions for the Nobel Peace Prize in his last will and testament. Andrew Carnegie's granddaughter, Linda Thorell Hill, told me that her grandfather and Bertha were great friends. It was Bertha who persuaded Carnegie to house the Permanent Court of Arbitration in a charismatic, alluring building. 'That building will represent a new age. From now on differences between states will be resolved by a judicial power that stands above these parties. Warfare is desperately old-fashioned and there is no need for it anymore.' Today we would say: 'Peace is cool.'

Mr. Komatsu, I have read your book and studied the things your Human Nature Science Institute endeavors in the field of International Peace. When you speak about peace, you see it as an extension of harmony. Harmony is a concept that is probably experienced differently and is rooted deeper in Asia than it is in the western world. The history of Europe consists of endless battles and bloodshed reaching a climax in two world wars. These are so terrible that after World War II poets stop writing their verses and sculptors stop their search for beauty. The artistic world is crippled and silenced. Germany offers endless apologies. A program by the name of *Wiedergutmachung* (reparation) is set up. In

places where Germany caused a lot of damage, German civilians volunteer to repair it. This is unrelated to all the reparation payments that are made by the German government. Even today there are programs that mainly focus on acquainting young people with the mechanisms of war, peace and coexistence.

When I was six years old I had to start school. My father asked me to take an atlas from the bookshelves. I was sitting on his lap and he showed me the map of Europe. 'Look, Ingkie, this little country that we live in is called The Netherlands. And this big country here is Germany. Soon you will be going to school and other people will start interfering with your upbringing.' Although the war had been over for fourteen years it was still a big issue. 'When you're in class and the teacher or one of the children is talking about 'krauts' (a derogatory term for Germans), you will stand up, walk out of the classroom and come straight home. We need to do everything in our power to become friends.' This man, who had survived three camps during the war, did not want his children to start their lives with feelings of revenge. Looking back I understand that this attitude made my father a hero. He wanted us to start our lives with an open mind and in the greatest freedom possible. He understood that we are all interdependent. We had arrived in a new age.

Mr. Komatsu, I think that this story of a man and a child is also your story. In your own words: 'We have reached the point of no return, we are now all dependent on each other through the international labor division in the basic industries of food, clothing and housing.' To reach your goal you employ a variety of methods. The fact that you also involve the arts moves me greatly and I will try to explain why. If art is solidified thought, what could be the function of a sculpture representing Bertha von Suttner? A sculpture is a stationary moment in time, the outcome of a row of successive thoughts and associations. If the essence of thought is clear and universal, the artwork can, from out of the blue, provide an insight that is more comprehensive and deeper than that provided by a pile of books. At first sight a work of art affects the heart and only later it reaches the head. If a work of art moves the spectator, it is also able to mobilize that person. The spectator may be prompted into action. And this is exactly what you wish to achieve with

your Institute. You wish for mankind to work on peace and imagine and reflect on their desired future. You request an active attitude. It is your dream to build a stage of empathy for man's evolution for the first time in history in the Japanese archipelago and the Korean Peninsula, the place where the three nuclear superpowers meet. You believe this can be done by learning from American smart power, Chinese hexie (harmony), Korean hwajaeng (harmony) and Japanese wajoo (harmony). You have a dream about Okinawa to become an Island of Perpetual World Peace with a center that consists of three main institutions.

First: The World War and Peace Picture & Video Center, second: The Memorial Tower and third: The Palace of Wa (peace/harmony).

On behalf of the Human Nature Science Institute you would like to propose to make the Korean Peninsula and Japan a nonnuclear zone with the strong support of the three big nuclear powers and designate the area as a birthplace of Wa culture. Also, the step-by-step nuclear disarmament of all the nations with nuclear weapons, you believe, should start simultaneously. Simultaneously, that is the word. There is a *Sculpture to inspire* in The Hague and a *Sculpture to inspire* in Matsue. In The Hague young people are inspired to think about war and peace. They are made aware of the fact that an individual is almost always able to stand up and make a difference. Bertha von Suttner lived in an age in which a collective mindset existed. The question we should ask ourselves now is: 'Do we also live in an age with a widespread collective mindset? And if so, what do we intend to do with it?'

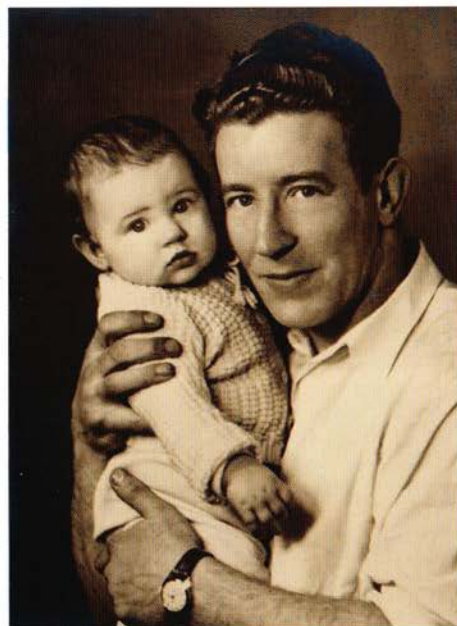
Shakespeare said that artists are the true witnesses of their age. But the arts are capable of more than just bearing witness to their age. The arts are able to transform. This entails that unutterable feelings, varying from deep longings to inconceivable hardships, can be discussed without directly naming them. It is this mechanism that enables the unimaginable to become imaginable. On this subject Albert Einstein remarked: 'Imagination is more important than knowledge. For knowledge is limited to all we now know and understand, while imagination embraces the entire world, and all there ever will be to know and understand.' Literature and the visual arts boost imagination. The arts mobilize our conscience. By placing oneself in someone else's shoes

the other will become more familiar and destruction will no longer be an option. Give the enemy a face.

Mr. Komatsu, you not only have a vision about a beautiful future for the world, but also about the steps necessary to achieve it. I have deep respect for you and can only say that all important people started by following their dreams. And this closes the circle. Whoever doesn't believe in dreams is not a realist

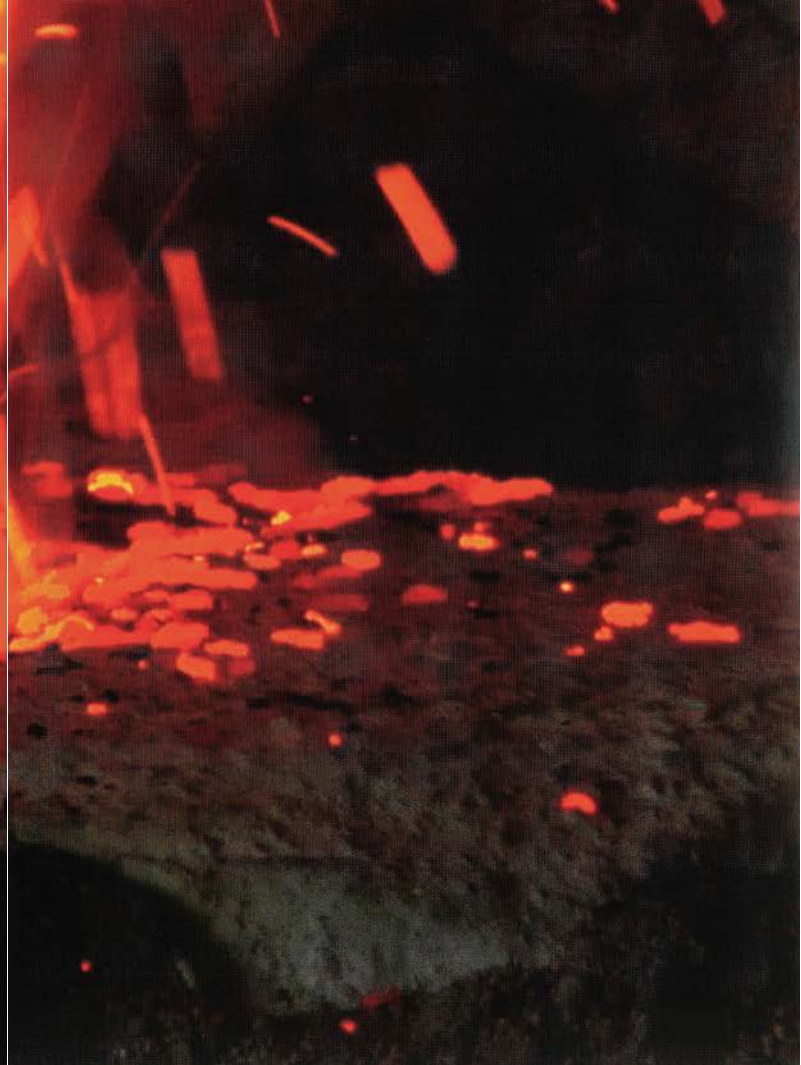
Warmest regards and ... peace is HOT.

Ingrid Rollema



Ingrid Rollema and her father 1953







Townhall The Hague 2013. The Lady in the pink dress is Linda Thorel Hill, granddaughter of Carnegie

Colophon

Author:

Ingrid Rollema

Editor:

Paula Koning

Final editor:

Marianne Kleijwegt

Translations:

Chinese - Perfect 翻译服务公司 (Vertaalbureau Perfect)

Korean - 이기항.송창주 (Yi Jun Peace Museum, The Hague)

Japanese - ベルタルビューロー・パーフェクト (Vertaalbureau Perfect)

English - Marie Louise Schoondergang | The Art of Translation

Photography:

Robin Lutz, Gerard Holthuis, Marsel Loermans, Eric de Vries, Maite Louisa, Dana Lamonda, Marlies Adriaanse, Karin van der Heijden & Bas Ackermann

Graphic design:

Geert Smorenburg

Print:

Rekafa, Venlo

Publisher:

De Bovenkamer, November 2014

ISBN/EAN:

978-90-807286-6-0

www.ingridrollema.nl

www.uitgeverijdebovenkamer.nl



Bertha von Suttner

ベルタ・フォン・ズットナー

1905年 ノーベル平和賞受賞

19世紀末から20世紀初めにかけて活躍したオーストリアの作家・平和活動家(1843年-1914年)。

1889年、小説「Die Waffen nieder! (武器を捨てよ!)」を発表し、平和活動の先駆者となる。オーストリアやドイツに平和協会を設立し、ハーグ平和会議(1899年・1907年)をはじめ、様々な国際会議に協力。

アルフレッド・ノーベルが平和賞を創設するうえで、大きな思想的影響を与えた。1905年、女性初のノーベル平和賞受賞者となる。1912年、小説「空の蛮行」を発表、世界大戦を強く警告した。

ヨーロッパでは「平和運動の母」として知られ、オーストリアの2ユーロ硬貨に肖像が刻まれている。

ズットナーが描かれた紙幣・コイン・切手



ベルタ・フォン・ズットナー
「武器を捨てよ!上下巻」





ズットナー胸像制作者
Ingrid Rollema
 イングリッド ロレマ

オランダ生まれの芸術家。ロッテルダム彫刻アカデミー卒、ライデン総合大学で国際法、ベルギーカソリック総合大学で応用倫理学を学ぶ。

2014年、アンドリュウ・カーネギーが寄付した平和宮が完成100周年を迎えたことを記念して、ベルタ・フォン・ズットナー像を制作。デン・ハーグ市現代美術館に建立された。2号像は komatsuelectric.co.ltd の依頼によって制作され、オーストリア・ウィーン平和記念館に約6ヶ月間展示されその後、国産像制作のため富

山県高岡市へ送られる。3号像は、2014年11月23日開催のシンポジウム「八雲立つ出雲から陽が昇る」での講演にあわせて制作された、日本へ来た最初の像。

現在、富山県高岡市で制作された国産1号像、蘭日合作像、蘭産3号像は、島根県松江市の小松電機産業のロビーで展示中。

ノーベル平和賞 歴代女性受賞者



ジェーン・アダムズ
1931年



エミリー・ボルチ
1946年



ベティ・ウィリアムズ
1976年



マイレッド・マクグワイア
1976年



マザー・テレサ
1979年



アルバ・ミュルデル
1982年



アウンサンスーチャー
1991年



リゴベルタ・メンチュウ
1992年



ジョディ・ウィリアムズ
1997年



シーリン・エバーディー
2003年



ワンガリ・マータイ
2004年



エレン・ジョンソン・サーリーフ
2011年



レイマ・ゴウィ
2011年



タワックル・カルマン
2011年



マララ・ユサフザイ
2014年

※名前の下の年号はノーベル平和賞受賞年を示します。

2013年9月 オランダ・ハーグ

平和宮 100 周年記念

平和フィランソロピー 20 人・オランダ製ズットナー 1 号像除幕式



001



005



002

オランダ・ハーグ平和宮の玄関に建立されるズットナー像



006



003

晩餐会にて、アンドリュウ・カーネギーのひ孫さんと



007

晩餐会会場



004



008

2014 年 6 月 オーストリア・ウィーン
 ズットナー女史 100 周年記念 オランダ製ズットナー 2 号像除幕式



2014 年 6 月 オーストリア・ウィーン
 ズットナー女史 100 周年記念 オランダ製ズットナー 2 号像除幕式



2014 年 8 月

8 月 1 日「水の日」

島根県松江市八雲町 親水公園

治水の偉人周藤彌兵衛翁大銅像 建立除幕式



022

周藤彌兵衛翁 (二六五一—一七五〇)

八雲町の山麓から流れ出る意字川は、江戸時代初期には急屈折と氾行を繰り返す河でした。そのため、大雨の時はたびたび堤防が決壊し、地域全体が泥海化する水害が多発しました。その惨状を憂え、慶安三年（一六五〇）から三年間、新たに直進する川筋に変える「川遡え」と「切り通し」の工事に取り組んだのが、日吉村（現在の松江市八雲町日吉）の豪農周藤彌兵衛家初代家正でした。その祖父の遺志を継いだ三代彌兵衛良利は、宝永三年（一七〇〇）五十六歳の時、延享四年（一七四七）九十七歳に至るまでに四十二年もの年月をかけ、工事をやりとげました。巨額の私財を投じ、百歳近くまで孤軍奮闘の努力をした良利の人間像は、今に至るまで語り継がれています。

さらに、明治三年（一八七〇）に六代兵衛の追加工事が行われ、その後、水害は激減し、旧河道の地内には広い田畑も生まれ、地域の繁栄と人々の幸せにつながりました。良利は宝暦二年（一七五二）百二歳の夭折を遂げました。

歴史に書目な人間は、現在に対しても書目である。

（ワイセツカ）

「理念なき経済は犯罪。経済なき理念は戯し。家を捨てて万家を興す。」

（宮澤徳翁）

「青春とは人生に成る期間をいうのではなく、心の様相をいうのだ。優れた創造力、逞意、意気、炎ゆる情熱、安易を振り捨てる冒険心、こういう様相を青春と言ったのだ。」

（サミエル・ウルマン）

2014 年 11 月

島根県松江市 くびきメッセ

八雲立つ出雲から陽が昇るシンポジウム開催

オランダ製ズットナー 3 号像除幕式



023



024

2015 年 5 月 韓国・日本大使館前

少女像とズットナーパネルを並べて



2015 年 5 月 富山県高岡市

オランダ製ズットナー 2 号像と国産の合作と純国産ズットナー 1 号像を制作



2015 年 8 月 島根県松江市八雲町 親水公園

8月1日「水の日」開催 火と水の祭り



2015 年 8 月 島根県松江市八雲町 親水公園

8月1日「水の日」開催 火と水の祭り



オーストリア・ウィーン

ウィーン平和記念館ズットナー 2 号像貸出中 訪問者記念撮影



日本の寄付で作られた国際司法裁判所 調停の間(日本の間)にてロレマさん講演



綴錦壁面装飾「晩春初夏百花百鳥の図」 川島織物セルコン

ロレマさんのプロジェクトによりガザ地区の子供たちに笑顔がうまれました



国内ズットナー像

左:純国産 中:蘭日合作 右:オランダ・ハーグ産 イングリッド・ロレマ作 (小松電機産業ロビーに展示中)



ズットナー女史没後 100 周年を迎えて

—成果（結果）＝能力（0 ～ 100）× 熱意（0 ～ 100）× 考え方（－∞ ～ 0 ～＋∞）—

小 松 昭 夫

皆様こんにちは。

人間自然科学研究所の理事長小松昭夫と申します。

今日、ベルタ・フォン・ズットナー女史没後 100 周年を記念する意味深い場所で、彼女を尊敬する皆様とお会いし、ズットナー女史の平和活動の意義を共有できることを嬉しく思います。

先ほどの動画でご紹介させていただきましたが、

人間自然科学研究所は、人類の特性と歴史を考察し、「積極的平和主義」に徹し、20 年の歳月をかけ、人類進化に至る対立・統合・発展が循環する「和の文化」を生み出すため、世界の戦争・平和記念館を訪問、民間外交を重ねてきました。

1945 年 7 月 29 日、日本「ポツダム宣言」黙殺と報道、8 月 6 日広島、9 日長崎に人類史上初めて原爆投下、9 月 2 日ミズーリ号での調印により、イタリア、ドイツに続いて日本の「敗戦」が確定、人類史上例のない被害をもたらした第 2 次世界大戦が終わりました。

日本は天皇放送が行われた 8 月 15 日を「終戦」記念日と定め、今日に至っています。この「終戦」という言葉を積極的に生かし、「人類社会の戦争を終わらせるさきがけを務める国家」と定義づければ、日本から世界恒久平和への道筋を示せると確信しています。

100 年以上前に世界大戦の勃発を予測し、小説『武器を捨てよ！』で戦争阻止を世界に訴え、空爆により人類が破滅に至ることを『空の野蛮化』で警告、欧米を中心に平和活動を展開し、ノーベルに平和賞創設を進言、女性初のノーベル平和賞（5 番目）を受賞したベルタ・フォン・ズットナー女史。この志を現代に蘇らせることが、私たちに求められています。

アンドリュー・カーネギーの寄付によりオランダ・ハーグ市に建設された「平和宮」(国際司法裁判所) 100 周年を記念して、2013 年、イングリッド・ロレマさん制作のズットナー女史の彫刻像が建立されました。その除幕式に参列し、ロレマさんのお人柄と、深遠な念いの伝わる像に魅了されました。関係者の方々の協力を得て、本日、ズットナー女史が亡くなったこの地で、その 2 号像を没後 100 年を記念して披露させていただくことができました。この街で展示された後、日本に移し、これまでズットナー女史を知らない日本人に広く紹介させていただきます。今回の展示をきっかけに、強く平和を希求する人々によって、ズットナー像が世界各地に次々と建立され、ズットナーの志が蘇り、平和活動の資金が生まれ、確かな平和への流れが始まることを願っています。

私が生まれ育ち、42 年前に創業した会社の所在地でもある、日本国島根県は、核の脅威が迫る朝鮮半島の対岸に位置し、日本最大の原子力発電所があります。島根県は、2005 年に韓国と日本の中間に位置する竹島(韓国名独島)に対し、領土権の早期確立を目指した運動を推進する目的で「竹島の日」を制定しましたが、このことが今日の東アジアの海・島をめぐる紛争の引き金になりました。

1907 年、第 2 回万国平和会議に大韓帝国使者として派遣された李儁(リジュン)烈士死去、1910 年日本の韓国併合、1914 年ベルタ・フォン・ズットナー死去、第 1 次世界大戦勃発。私はこれらの経緯と現在の世界情勢を日本で受け止め、2014 年 6 月 17 日、オーストリア・ウィーンから、構想と提言を発表いたします。

構想とは、「国民国連・国際平和センター」です。

現在の国連は、1945 年 2 月のヤルタ会談で合意され、常任理事国 5 か国を含む大国主導で運営、193 カ国の「政府代表」で構成され、時には正義を掲げ武力を行使しています。「国民国連」は、人類の特性と歴史的経緯を生かし、論理的討議を通じて、長い時間軸で道理を実現するストーリーを生み出す、「国民代表」で構成される集団です。

また、「国際平和センター」は、対立が続く日本の沖縄の人類史から見た地政学的な意味を研究する中から生まれました。人類の未来を拓く「誓いの施設」として同センターを創設し、「世界恒久平和発祥の島」とする構想です。

これは、次の主要 3 施設により構成されます。

- (1) 世界の戦争と平和関連博物館を情報通信技術(ICT)で結び、各施設の資料と写真・映像を総合的に扱い、世界に配信する「世界戦争平和映像センター」。
- (2) 世界中から近代の戦争の全戦没者電子データを集め、永遠に記録、閲覧できる「メモリアルタワー」
- (3) 最先端の科学技術と ICT を生かし、平和会議、平和貢献者への顕彰、「知のオリンピック」などを開催し、「和の文化」を生み出す「和の殿堂」。

そして提言とは、米国・露国・中国の三大核大国の結節点、朝鮮半島と日本列島を三大核大国の積極的支持を得て非核化し、「和の文化」発祥地とすることと、すべての核保有国の段階的な核削減の同時スタートの提言です。

今から 300 年前、私の故郷、出雲国日吉村(現・島根県松江市八雲町)の周藤彌兵衛翁は、私財を投じ、56 歳から 97 歳まで 42 年をかけて、硬い安山岩の霊山・剣山(つるぎさん)をノミと槌で切り崩し、切通しを完成、洪水を繰り返す川の流れを変え、村人を救い、102 歳で大往生されました。

ズットナー女史と同様に志を貫いた周藤翁の生涯を描いた小説『悠久の河』を日本水道新聞に 2014 年 7 月から連載し、その後、日英韓中露の 5 か国語で出版を予定しています。また、ズットナー像と同時期に、中国山東省(1937 年国共合作の地)で翁の大銅像を制作、8 月 1 日「水の日」に、八雲町に建立します。

ギリシャ生まれのラファディオ・ハーンが、明治時代、初めて欧米に日本文化を紹介した『知られざる日本の面影』は、彼が島根県松江市に住んだ時の体験を元にして書いた作品です。

そして今、小説『悠久の河』が生まれたこの地域を「和の文化」創造の原点に、情報通信技術（ICT）を用いて『世界の水と平和』のストーリーを描くことにより、提言、構想の具現化に向け、急速な流れが始まることを念じています。

ご清聴ありがとうございました。

2014 年 6 月

On the Occasion of Bertha von Suttner's Centenary

—Result=Ability(0 ~ 100) ×Passion(0 ~ 100) ×Thought(-∞ ~ 0 ~ +∞)—

Akio Komatsu

Ladies and Gentlemen:

My name is Akio Komatsu, chairman of the board of directors of The Human, Nature & Science Institute Foundation (HNS) in Japan.

It is my honor and greatest pleasure to meet you all today who love and respect our Bertha von Suttner at this special place commemorating the one hundredth year of her death and share with you her hopes and wishes throughout her life dedicated to peace.

As explained in the video, we (HNS) have, as positive Peace advocates, devoted our efforts since twenty years ago to creating a framework of human empathy through unofficial diplomacy, visiting war and peace museums world over.

According to newspapers, Japan decided to ignore the Potsdam Declaration on July 29th of 1945, and the atomic bombs, for the first time in human history, were dropped on Hiroshima and Nagasaki. World War II, the most devastating war in history ended when Japan surrendered following after Italy and Germany by signing on the Missouri on September 2nd. In Japan August 15th has been designated as the Day of the “Termination of the War” since the Emperor Hirohito made a radio broadcast on the day. The term “termination of wars,” we strongly believe, should have a very positive meaning that “Japan should be a forerunner to help put an end to all wars for good and bring about perpetual peace on earth.”

About a century ago Bertha von Suttner, a novelist and active pacifist in Europe and America, predicted the outbreak of a world war in her novel Lay Down Your Arms, warned the annihilation of mankind in Barbarization of the Sky, influenced Alfred Nobel in his decision to include a peace prize among Nobel Prizes, which she won as the first lady (the fifth laureate) in history. It is, I believe, our duty to make the best use of her renewed hopes and teachings in our world today.

In 2013, a sculpture of Suttner was made by Ms. Ingrid Rollema, a sculptor, and displayed during the centennial commemoration of the foundation of the Peace Palace (the World Court) in The Hague which was constructed with the donation from Andrew Carnegie. I was at the unveiling ceremony then and deeply moved by Ms. Rollema's personality and her work which definitely carries her profound thought. I am happy to be able to display, all thanks to many related people, a second bust of Suttner by Ms. Rollema before you today at this special place where she passed away a century ago. After the exhibition in Vienna the sculpture will be moved to Japan to advocate peace widely to the people who do not know much about Suttner. I also hope that many more sculptures of her will be built all over the world to encourage both people and money to form a steady current of peace.

Shimane Prefecture, Japan where I was born and started my business forty-two years ago is located on the other side of the Korean Peninsula where nuclear threat is a reality by now. Besides, it has the largest nuclear power plant in Japan. In 2005 Shimane Prefecture designated the "Day of Takeshima (Dokdo in Korean)" in their efforts to help establish the Japanese sovereignty over the island. However, it only triggered the further conflicts and disputes over the territorial issues of the islands and the seas in East Asia.

After contemplating in Japan the death of Yi Jun in 1907 who lived by his belief and was the chief delegate of the Imperial Korea to the 2nd International Peace Conference, the death of Bertha von Suttner in 1914, the outbreak of World War I, etc., and how these and other events were interwoven to form the present situations of the world, I would like to announce our project plan and make a proposal this day of June 17th of 2014 in Vienna, Austria.

It is a project of "Peoples' United Nations & the International Peace Center." The framework of the United Nations was agreed upon in Yalta Conference in February of 1945 and the five permanent members of the UN Security Council have been playing leading roles of the international organization of 193 members who represent their own governments. They sometimes use their armed forces in order

to practice justice. "The Peoples' United Nations" on the other hand is a group of people who "represent their own people" to discuss as rationally as possible on the bases of human nature and history how to make stories by which justice functions for everyone in the long run.

"The International Peace Center" plan was born from our studies of geopolitical meanings in the human history of Okinawa which is not yet free from various kinds of antagonism. The center will be a "facility of promises" to open the door to the future of humankind and help Okinawa become an "Island of Perpetual World Peace." The Center consists of the following three main institutions.

- (1) "The World War and Peace Picture & Video Center" will play a role of a kind of "central museum" of war and peace museums in the world by inter-connecting them on the internet by using ICT.
- (2) "The Memorial Tower" will collect the data of all the war victims in modern wars and record them permanently in the form of electronic data to which visitors have free access from any place of the world.
- (3) "The Palace of Wa (peace/harmony)" will make the best use of the forefront of science and technology and sponsor many activities to bring forth "the culture of Wa" such as peace conferences, "Wisdom Olympics," throwing light on people who have contributed to peace, etc.

On behalf of the Human, Nature and Science Institute I would like to propose to make the Korean Peninsula and Japan a nonnuclear zone with the strong support of the three big nuclear powers and designate the area as a birthplace of "Wa culture." Also, the step-by-step nuclear disarmament of all the nations with nuclear weapons, we believe, should start simultaneously.

About three hundred years ago, Sutoh Yahee of Hiyoshi Village of Izumo Province (now Yakumo Town, Matsue City, Shimane Prefecture), also my hometown, spent his own fortune and cut through a hard andesite mountain called Mt. Tsurugi with

his hammers and chisels in order to change the route of the often flooding river and saved the villagers. He worked on the project for 42 years from 56 to 97 and died in peace at the age of 102.

His unyielding story like that of Bertha von Suttner will appear in the form of serialized novel titled The Eternal River on Nihon Suido Shinbun (The Journal of Japanese Water Service) beginning in July, 2014. Then it will be published as a book in five different languages; Japanese, English, Korean, Chinese and Russian.

A huge bronze statue of him was made in Shandong Province, China (known as a place where the collaboration between Kuomintang and the Communists took place) at around the same time when the sculpture of Suttner was made in Europe. His statue will be shipped to Japan to be placed in Yakumo Town on August 1st which is designated as the "Water Day."

A book titled Glimpses of Unfamiliar Japan was written to introduce Japanese culture in early days to the Western world by Lafcadio Hearn who was born in Greece and came to Japan during the Meiji period. He wrote the book basing on his own experiences in Matsue.

Standing on Izumo, a birthplace of "Wa culture" and the land where The Eternal River was written, we will keep writing our own story of "world peace and water," making full use of ICT. It is our sincere hope that a steady current will be made soon and start running into a major stream toward our proposal of nuclear disarmament and the world peace project.

Thank you very much.

書籍紹介



小泉八雲の開かれた精神 Open Mind ベルタ・フォン・ズットナー

八雲立つ出雲・松江に蘇る
女性最初のノーベル平和賞受賞者

企画 小松 昭夫
編集 古浦 義己
翻訳 中村 新一郎
発行日 2014年11月23日
全40ページ
¥300

2015年
絶賛
発売中

天略

著者 早川 和宏 全440頁 定価2,500円＋税

2013年、オランダ・ハーグにある「平和宮」建立100周年を記念して「世界のフィランソロピスト(指導的慈善事業家)20人」の選定が行われた。
選ばれたのは、平和宮の寄贈者でもある実業家アンドリュー・カーネギーをはじめ、アルフレッド・ノーベル、ヘンリー・フォード、J・D・ロックフェラーに加え、テッド・ターナー、ビル・ゲイツといった古今東西知らぬ者のない顔ぶれ。そのなかに二人の日本人がいた。本書は、その一人の日本人の行動の根幹をなす究極の思考「天略」に焦点をあてた。

2015年
10月
発売予定

島根 修 発電所

原典 その光と影
著者 山本 謙
編集 古浦 義己
全370頁 定価4,500円＋税

2015年
絶賛
発売中

悠久の河

川の流れを変えた
八雲立つ出雲の偉人
岡部彌兵衛の物語
文 村松峰子
解説 クジタ・ミユウ
全79頁 定価2,500円＋税

2015年
10月
発売予定

対立から共生へ

小松昭夫の「和の文化」の
理念と実践
著者 堀 司書/監 郎 節
全232頁 定価1,500円＋税

日経新聞
広告掲載
2015年9月

June 2014

